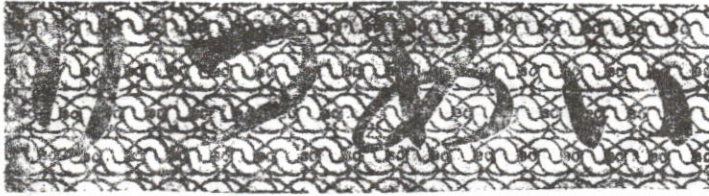


昭和58年3月30日 発行



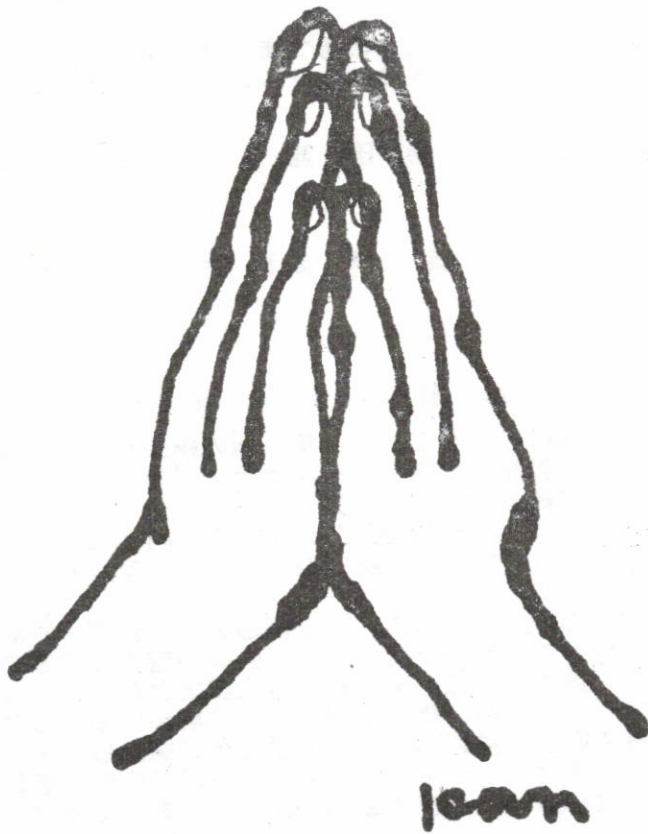
神奈川

題字・故末川博名誉院長

創刊号



立命館大学校友会神奈川県支部
〒221横浜市神奈川区鶴屋町2 21 9
東亜興産 ㈱ 内
☎ (045) 312-1321



立命館 神奈川 県支部によせて

立命館の建学精神とは異なるかも知れませんが、私は自己流に 手を合わせる心と真をみつめる眼を 立命館在学中に育てられたように信じ、在学11年(召集4年半含む)をすごしたように思います。

諸先生から教えられた数々の学問は、全部忘れたように思いますが、ただ山元一郎先生の情熱あふるるお心だけが、何時も私の心のどこかに住みついている様な気がしてなりません。それは 私の底の浅い心の中で、いつのまにか手を合わせる心と真をみつめる眼という心情に 変わった様に思われます。このたび、新しく立命館の仲間が 神奈川で集まることになり、懐かしさにひかれて出席しましたところ、浅学非才の私が 偶然支部長という大命を押し、恐縮しております。

はたして大任を果せるか否かわかりませんが、皆様と一緒に「立命の精神」が世の中に拡がることは 大変すばらしいことだと信じ、期待に応えて努力したいと思えます。広小路時代しか知らない私には、新しい立命のキャンパスの空気と情緒も把握出来ませんが、2月11日に総会を開きました折、若い方々にお会い出来、何か新しいエネルギーが 私の中にも流れ、新しい花が心の中に咲いてくるようでした。このような方々に接していれば、若々しい夢が拡がり、私の知らないもっと大きな「立命」の建学精神が 育くまれるのではないかと思います。

神奈川の一隅で「立命」に集いし人々のあつまりは、単なる同窓会的小市民の集いではなく、生涯教育の 大きなサークルとして芽生え 展がって行く事と信じます。

支部長 勝田 寛 一 昭25年 文卒

立命館 大学 神奈川 県支部 設立される

設立 総会 アラカルト

浜田 平 穂 昭31年 文卒

2月11日、建国記念日ということで、第一回の総会にとっては 最もふさわしい日である。川崎駅前すぐ右手に日航ホテルがあり 玄関先に 立命館大学神奈川県支部設立総会々場という大きな看板が目玉を引く。

会場に当てられた5階フロア全体を二つに割って 向って右側が総会々場、左側が宴会場に当てられている。午後2時ころには、家族同伴者を含めて120名余りが 出席した。

総会は 司会者の開会の辞を皮切りに、設立経過報告、会則の承認、役員を選出、役員紹介と続いて 勝田支部長から 会員の皆さんの協力で意義ある支部に育てたいとの挨拶がある。天野総長は入試日とかち合って出席出来ず、大学を代表して 井川常務理事の祝辞を結びに宴会に移行した。

宴会では相沢幹事長の開会の辞のあと、田中伊三次先輩から 末川先生の若き日の講義模様をまじえた ユーモラスな思い出話が出席者の感銘をよび 長洲神奈川県知事の長文のメッセージの朗読のあと 乾杯となった。

それぞれ 胸につけた名札をたよりに オー！ ヨー！ イヤー！ と 歓談がしばらく続いて 逸見宮城県支部長、江藤北九州副支部長の激励の言葉があった。その時である。急に外廊下から笛と 太鼓と 鐘のにぎやかな

伴奏にのせられて カラフルでイキな衣裳に身を包んだ男女十数名が 阿波おどりをくりひろげながら 所せましと会場になだれこんできた。アトラクションの始まりである。数名の会員も おどりの輪に加わり、宴会は最高潮に達した。その後 卒業年度別に 会員全員の紹介があり、会の発展を誓って 勝田支部長から寄贈された画集を手土産にして 閉会となった。

○ 会 則 に つ い て は

別紙「立命館大学校友会神奈川支部会則」を参照して下さい。

○ 選出された役員は次の通りです。

- | | | |
|-------|-----------|-----------|
| ・支部長 | 勝田 寛一 | ・小田切 義雄 |
| ・副支部長 | 奥田 政信 | |
| ・幹事 | 相沢 良信 | |
| ・幹事 | 武田 山本 | ・茂山 (松岡) |
| | 浜田 (船越) | ・福田 (上田) |
| | 石井 (重谷) | ・登川 (織田) |
| | 橋本 (横野) | ・井上 (長谷川) |
| | (宇田) (奥田) | ・山下 (保) |
| | 谷本 (川保) | ・長浜 (山下) |
-
- | | | |
|-----|----|------|
| ・会計 | 浜田 | ・重谷 |
| ・広報 | 横野 | ・長谷川 |
| | | ・山下 |
| | | ・長浜 |

- ※ 設立総会にむけて 会員より一言
- ・神奈川支部結成うれしく思います。勤務の都合で出席できませんが、次回は是非、出席したいと思ひます。御盛會を おいのりします。
寺本 雅 則 昭40年理工
 - ・支部設立について何から何まで 御世話下さっていらっしゃる方々の御苦勞を深謝いたしていますが、お応え出来なくて申し訳ありません。私の病氣も丸3年を迎えて 義理を欠いています。おわび申し上げます。
川田 彰 昭9年電講
 - ・神奈川支部結成うれしく思います。お役に立てるように 心がけたいと思ひます。
尾崎 俊彦 昭48年産社卒
 - ・京浜方面に知り合いがおらず、出来ればこのような会に 出席したいのですが、当日都合により出席不可です。御容謝下さい。
中川 保博 昭46年 理工卒
 - ・昭58年1月13日、主人は亡くなりました。学校と御会の御発展をおいのりします。(幸田内) 幸田 昭三 (旧姓山本) 昭28年理工
 - ・行きたいのですが、都合で欠席させていただきます。又、事務局へもせひ寄らせてもらいたいと思ひますので、よろしく。
桑崎 純 昭54年 文卒
 - ・当日、結婚式のため出席出来ません。2年前まで川崎市在住でしたが昨年、鶴見区に引越しました。 佐々木 達夫 昭36年 理工卒
 - ・勤務先が貸衣裳を主とする業種であり、土・日・祭日は最盛の忙しさであり、残念ですが欠席させていただきます。
平光 すすむ 昭32年 法卒

神奈川県知事よりのお祝いのメッセージ

立命館大学校友会のみなさま、神奈川県支部の設立にあたり心からお祝いのメッセージを贈ります。

先日、この設立のために奔走されてきた世話人の方から、このお話をうかがったときは、正直に申し上げて私は、ビックリさせられました。立命館といえは、関西を根拠地とする大学、漠然とではありますが、東京・横浜方面で活躍される方々というのは、ごく限られているのではないかと考えておりました。しかし世話人の方から、その数、千数百名を数えると聞き、全くの不勉強に深く恥入った次第です。

それほど多くの立命館OBやOGの方々が、この神奈川県に働き、生活されていることは、ほんとうに驚きでした。同時に大いに頼もしくも思っています。神奈川県というのは、一方では古い歴史をもちながら、一方では新しい文化や考え方を取り入れることに敏感な県民性をもっています。いうならば、極めて進取の気性に富んだ風土といえましょう。

そうした意味では、京都で多感な青春時代を過され、勉学に励まれた皆さんを、神奈川の住民は、ともに生活をし、ともに人生を旅する仲間として、喜んでお迎えしていることと信じます。

神奈川は、これからも日本の未来をきり開く先兵としての役割を果たさなければなりません。どうか立命館OBの方々も、時には県政推進のために、お知恵やお力をお貸し下さい。

心からみなさんの友情の深まりと、支部の御発展をいのりつつ、本日の設立総会の御盛会をお祝い申し上げます。

1983年2月11日

神奈川県知事

長洲 一 二

立命館大学総長よりの祝電

神奈川県支部設立総会の御盛会をお祝い申し上げます。平素は、母校発展のため何かとご援助をたまわり、厚く御礼申し上げます。おかげ様で私学をとりまく情勢が極めて厳しいにもかかわらず、立命館学園は創立84年を迎えるとともに、教育研究活動充実のため、衣笠一拠点完成し、続いて末川記念会館の建設に着手し、今秋には完成の運びとなりました。

貴支部の益々の発展を願うとともに、校友会の御多幸をいのります。

立命館総長 天野和夫

こんな支部にしたいヨー！

重谷 務 昭33年 文卒

広島、京都、横浜と生活の場が変わりましたが、横浜に永住の覚悟 微力ながらも 校友会発展のために力になる事が出来たらと思っています。

今年度、会計を担当することになりました。会費は 年間わずか2,000円。皆様の御協力を お願い致します。

「校友の力」 織田 陽司 昭35年 理工卒

人は一人では弱いが多くなりの人々の協力と結集によって 大きな力となります。校友会の事業として連絡を密にして 校友の就職斡旋（新卒、中途退職者、定年退職者を含めて）の活動を情熱をもって進めたい。これからの活動方針について 多くの御意見と御賛同を希望します。

「人の和」 石井 寛 昭36年 理工卒

先日、病氣自宅静養中 テレビの「笑っていいとも」という番組を見て 感じたのは、人生はいろいろの「輪」の中で「和」を保ちながら 生きているのだと。しかもその「輪」が大きくなり、その「和」が親密になれば 心ゆたかなものに発展していくのではないだろうか。この校友会活動も 皆んなの力を集められればと願っております。

「ふれあい」 横野 圭司 昭42年 法卒

人は所詮、一人では生きられない。一人ひとりが 心をつなぎあうことによって 愛と情が生まれ連帯という「和」になる。立命健児は、ここ神奈川県支部のもとに集い、お互いの生活に潤いをもち 自主的な参加によって希望ある支部に 育んでいきましょう。

橋本 卓也 昭46年 産社卒

京都をはなれて 早十数年。横浜に居をかまえて 母校の皆様と旧交を温める機会に恵まれた事を非常に慶んでいます。皆様と力をあわせて 神奈川県支部の充実にご寄与できればと考えております。よろしくお願い致します。

長浜 隆文 昭54年 経済卒

先輩の皆様、今日は。横浜に来て 丸四年。校友会のお陰で多くの方々と 知り合うことができました。この会を日本の中心にふさわしい 日本一庶派な そして愛される会にするよう がんばります。よろしくお願い致します。

「立命神奈川のこと」

山下 保 昭50年 文卒

まだ数カ月しかならないが、何度 横浜駅西口へ足を運んだことか。すっかり常連になってしまった。これも 東亜興産さんをはじめ、あたたかみのある雰囲気のためだろう。わたし自身は、高松で十九年間を送り、京都で四年、東京で八年目の生活を送っている。この先どうなるのか、予測もつかないが、二十年間は都の教員を続け 寿命だと五十年は生きることになる。同じ働き、生活をしていくのであれば、手こたえのある充実した毎日を送りたい。その為にも、校友の皆様との出会いやつきあいを大切にしたい。どうぞよろしく。

「詩吟のすすめ」

桜本 武志 昭33年 法卒

駅まで一里の夜道をトボトボ歩いて、京都へ向ったのは 30年も昔です。私の故郷は、東北の一寒村です。今では 日本一の原子力発電所の基地に変わっています。立命館では、課外授業に労力も月謝も 多く払ったのではないかと 反省しています。詩吟は、卒業後 習いはじめました。学友も吟友も私の全財産であります。何も他に財産らしきものが 無いのですから 詩吟は、お金のかからない趣味です。お前、李白などの唐詩の世界も素晴らしい。立命館O・Bの皆さんに是非 おすすめしたいものです。ご希望の方が一人でもいらっしゃれば、この道の第一人者、横山岳精先生を お招きして、ご紹介したいと思っています。

各 担 当 者 から の お 願 い

● 会費払い込みのお願い (会計担当 重谷)

去る2月11日 支部総会において会費2,000円(年額)に決議されました。会員一人一人の会費が 今後の支部の充実した運営、発展に結びつくことと御認識のうえ 皆様の御支援、御協力をお願いいたします。

振込先は 下記いずれの機関を通じても 結構です。

- (1) 銀行 横浜銀行 横浜駅前支店
普通預金 No.825229
- (2) 郵便局 横浜中央郵便局
振替口座 No.横浜5-10799

※ 口座名はいずれも「立命館大学校友会神奈川県支部」
(総会にて納入された方は、本年度会費は 結構です。)

(3) 現金書留 下記事務所まで

〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-9

三善ビル 東亜興産 (株) 横浜支店内

浜田平穂

- 名簿作成について (名簿作成担当 登川)
係では校友会活動を活発にするため、正確な名簿を一日でも早く皆様にお届けするよう努力しています。職場・就職先・住所・電話の連絡がまだの方は、事務局あて至急連絡下さい。転居・移動のあったときも速やかに連絡して下さい。
- 求人・求職の募集をいたします
事務局へ ご応募を!

月例会のお知らせ

- 3月度のようす 3月6日(日)於 三善ビル
NHK大河ドラマ「徳川家康」チーフディレクター
大原 誠 氏を招いて製作の苦労話・裏話をお聞きしました。
 - 4月度
春の「美術鑑賞会」
勝田寛一 (当支部長 多摩美術大学教授)ほか多数出品
・日時 昭58年4月17日(日)
午前11:30~
・集合場所 東京都美術館ロビー(上野)
・その他 会費:無料 昼食:各自
 - 5月度
政界放談「田中伊三次先輩を囲んで」
衆議院議員 田中伊三次
・日時 昭58年5月8日(日)2時~
・場所 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-9
三善ビル 地下1階ホール(予定)
・会費 ¥800円
- ※ 月例会には 会員御家族の御参加も お願いいたします。

謝 費 廣 告 御 願 い !

拜啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

2月11日、立命館大学校友会神奈川県支部が設立致しました。

当支部の活動を活発にするため 広告を頂戴いたたく御願ひ申し上げます。

記

- | | | |
|---------|-------------------------|----------|
| 1. 体 裁 | B 5 版 | |
| 2. 発行部数 | 800部 | |
| 3. 広告料金 | A (7. 3cm × 5. 2cm) | ¥ 5,000円 |
| | B (14. 6cm × 5. 2cm) | ¥10,000円 |
| | C (14. 6cm × 10. 6cm) | ¥20,000円 |
| | D (14. 6cm × 21. 2cm) | ¥30,000円 |

申し込み

社名・氏名			
住 所			
希望スペース		料 金	
広告の内容 など			

今回はタイプ印刷ですが、次号(5月発行予定)からは 活版印刷になる予定です。

編 集 後 記

・創刊号は設立世話人が中心で 作成いたしました。2号からは活版印刷の予定です。 会員の近況・要望など原稿をお寄せ下さい。

・りつめい 神奈川を 皆様の手で育てて下さい。

・今回は、武田先輩の助言のもと 広報担当 4名で編集・発行致しました。次号からは皆様の積極的な御参加をお待ち申し上げます。

(横 野、山 下、長 浜、長谷川)

・手を合わせる心の絵は 支部長による。